

初日、あこがれの乗馬（馬に乗ってみたものの勇気と体力がなくて5分でリタイア）と徒歩で急な坂道をロハス山系の山を登りラムアプス小学校へ。かわいい元気な子どもたちが待っていてくれました（写真右：給食タイムの子どもたちと）。周りにはジャックフルーツの大木があり、たわわに実っていました。



14歳でまだ小学3年生という私の里子アイリーンの村はとても遠くて、今回会えなかったのですが、CMIPの事務所で、前に支援していたカレッジ奨学生ジュディスが結婚をして、子どもに恵まれ、幸せに暮らしているとの情報を得て、とてもうれしく思いました。

レイクセブでは、以前に訪問したときの植樹マホガニーが大きく育っていて白い木肌を輝かせていました。

今回のスタディーツアーでは、土壌侵食を防ぐため急斜面に植えられた助成金事業の植樹の様子を見たり、学校訪問では、若い先生と子どもたちの元気な姿を見ることができました。また幼い弟と一緒に授業を受けている生徒もいる現実に触れました。

ガンダムさんの案内で訪ねた工房では、人間国宝の織ったティナラクに会う事ができ感激しました。またアバカの染色前の生成りの繊維を手に入れることもできました。



シソ科と思われる、漏斗状で、先が5裂する小さな花を1～3輪くらい付ける青紫色のきれいな花が至るところに咲いていました。現地では誰に聞いても「エレファント」という答えが返ってきました。調べたところ日本では、クマツヅラ科、南アメリカ原産の沖縄県帰化植物で「チリメンナガボソウ（縮緬長穂草）」と分かりました。また会いたい花の一つです。

帰りの飛行機は空席が多く、3人分の席を一人で座り、のんびりと8日間で伸びた手指の爪を見たり、窓越しに輝くオレンジ色からムラサキ、グレイ、そしてクロの闇へと変わる空を眺めながら……ご一緒した皆様に感謝、現地で出会った元気な子どもたち、スタッフの方々、豊かな自然に感謝、そして8日間留守にするのを快く送り出してくれた家族に感謝する時がもてました。気力、体力共に最後の訪問と思って参加したスタディーツアーですが、体力をつけて、また参加したくなりました。皆様ありがとうございました。

2年ぶり5度目のミンダナオで気付いたのは、都市部の発展ぶりです。経済格差がますます開いているという印象を受けました。そのような中で暮らしを守るための努力がありました。

ムスリムの村では、女性たちが、バロンギスの葉やヤシの葉を編んだ製品を販売し、収益の一部を巡回診療等のヘルス活動にあてていました。政府は公務員以外の方が加入する健康保険「フィルヘルス」の保険料を払えない人のために新たに「フォーピース」を作り、貧しい人も医療サービスを受けられると聞きました。レイクセブのチボリ女性の組合「COWHED」でも、ハンディクラフトの販売収益の一部は、ヘルス活動にあてられているようです。

ラムアプスへは、馬に乗ったり、時々歩いたりして山道を進みました。私が乗った馬を引いてくれた男の子の後ろ足首には、大きな傷跡がいくつもありませんでした。この山道をうまく歩けるようになるまでに痛い思いをたくさんしてきたのでしょう。学校のある村に着くと、長老キンドさん（写真）を紹介されました。クルアーン（コーラン）やハディース（ムハマト言行録）を学び、村人に尊敬されている方だそうです。往路は馬が行ける道でしたが、復路は、断崖絶壁を踏み固めただけのような急な道で、馬も危険なため歩きました。学校帰りだと思われる子どもとすれ違い、映画「地球の果ての通学路」を見ているようでした。



レイクセブ町では4つの学校を訪ねました。教科書は全生徒に行渡らず、親が働いているために、就学前の弟を連れてきている子もいました。決して恵まれた環境での学びではありませんが、生徒たちからは勉強への意欲が感じられます。訪ねた日は月曜日で、週1回、チボリ民族の衣装を着て登校し、伝統文化を学ぶ日でした。どの学校でも民族衣装の子どもたちの姿を見ることができました。レイクセブは、音楽、踊り、織物などの伝統文化がよく保存継承されている地域であると思えました。植林事業をしている村でも貴重な経験をしました。会員ではないのに参加させていただいて、感謝しています。